

LRQA独立保証声明書

ナブテスコ株式会社の 2023 年温室効果ガス排出量および電力使用量に関する保証

この保証声明書は、ナブテスコ株式会社に対して作成されたものである。

保証業務の条件

LRQA リミテッド（以下、LRQA という）は、ナブテスコ株式会社（以下、会社という）からの委嘱に基づき、2023 年（2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日）の温室効果ガス（GHG）排出量および電力使用量（以下、報告書という）に対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、ISAE3000（改訂版）及び GHG 排出量については ISO14064-3:2019 を用いて、限定的レベルの独立保証業務を実施した。

LRQA の保証業務は、会社とその国内外連結会社における運営及び活動に対して、以下の要求事項を対象とする。

- 会社の定める報告手順への適合性の検証
- 以下に掲載する表 1 および表 2 に要約された GHG 排出量の信頼性を評価すること。¹²
 - スコープ 1 GHG 排出量³およびスコープ 2 GHG 排出量（ロケーション基準及びマーケット基準）
 - スコープ 3 GHG 排出量（カテゴリー 1、2、3、4、5、6、7、11、12）

保証業務の範囲は、報告書に言及されている上記に明示した以外の組織のサプライヤー、業務委託先、その他第三者のデータおよび情報を除く。

LRQA の責任は、会社に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQA は会社以外へのいかなる義務または責任を放棄する。会社は報告書内の全てのデータ及び情報の収集、集計、分析、公表、及び報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は会社によって承認されており、その責任は会社にある。

LRQA の意見

LRQA の保証手続の結果、会社が全ての重要な点において、

- 自らの定める基準に従って報告書を作成していない
- 下表 1、表 2 および表 3 に要約される正確で信用できる GHG 排出量および電力使用量を開示していない

ことを示す事実は認められなかった。

この保証声明書で表明された検証意見は、限定的保証水準⁵、及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

¹ 温室効果ガス排出量の算定は固有の不確かさを持つ。

² スコープ 1 およびスコープ 2 排出量はナブテスコ株式会社及び国内外連結子会社を対象とする。スコープ 3 排出量はナブテスコ株式会社単体を対象とする。

³ スコープ 1 GHG 排出量は、エネルギー起源 CO₂ のみを対象とする。

⁴ 所有もしくはリースによる営業車の使用による CO₂ 排出は算定対象外とする。

⁵ 限定的保証業務の証拠収集は、合理的保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、限定的保証業務で得られる保証水準は合理的保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。

表 1. ナブテスコの 2023 年 GHG 排出量の要約

スコープ		トンCO ₂ e
直接的な GHG 排出量 (スコープ 1)		4,929
エネルギー起源の間接的な GHG 排出量 (スコープ 2、マーケットベース)		38,495
エネルギー起源の間接的な GHG 排出量 (スコープ 2、ロケーションベース)		38,698
その他の間接的な GHG 排出量 (スコープ 3)		1,074,907

カテゴリー	トン CO ₂ e	カテゴリー	トン CO ₂ e	カテゴリー	トン CO ₂ e
カテゴリー1	856,494	カテゴリー4	154,878	カテゴリー7	1,695
カテゴリー2	30,922	カテゴリー5	1,101	カテゴリー11	17,006
カテゴリー3	6,445	カテゴリー6	5,442	カテゴリー12	924

表 2. 2022年と2023年GHG排出量の推移

スコープ	トン CO ₂ e (実排出係数基準)
スコープ 1、スコープ 2 (マーケットベース)	-3,609

注: LRQA は組織の 2023 年の、2022 年からのスコープ 1 およびスコープ 2 排出量の推移を評価した (-3,609 トン CO₂)。これは CDP による 2024 年の気候変動質問書 (CDP 報告) からの要求に対応するものである。2022 年のデータは、2022 暦年を対象とするナブテスコのインテグレイテッドレポートに基づく。

表 3. 総電力使用量および再生可能エネルギー使用量

	実績	単位
総電力使用量	130,552	MWh
CO ₂ フリー電力購入量	33,740	MWh
太陽光発電量 (自家消費分)	9,640	MWh
非化石証書購入	974	MWh

保証手続

LRQA の保証業務は、ISAE 3000 (改訂版) 及び ISO14064-3:2019 に従って実施された。保証業務の証拠収集プロセスの一環として、以下の事項が実施された。

- 報告書内に重大な誤り、記載の漏れ及び誤りが無いことを確認するための、会社のデータマネジメントシステムを審査した。LRQA は、内部検証を含め、データの取り扱い及びシステムの有効性をレビューすることにより、これを行った。
- 環境データの収集と報告書の作成に関わる主たる関係者へのインタビューを行った。
- サンプルング手法を用いて、集計されたデータの再計算と元データとの突合を行った。
- 集計された 2023 年の GHG 排出量、電力使用量のデータ及び記録を検証した。
- データマネジメントシステムの運用状況を評価する為、ナブテスコ株式会社 津工場及び神戸工場を訪問し、データの収集及び記録管理の実施状況の確認を行うと同時に、敷地範囲において排出源の現場確認を実施した。

観察事項

会社が、GHG 排出量データと情報に関する報告および統制システムを改善し、更に有効な管理を行うことが望まれる。

基準、適格性及び独立性



LRQAはISO14065 “温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項”、ISO17021-1 “適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項—第1部：要求事項”に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。これらは国際会計士倫理基準審議会による国際品質管理基準1と職業会計士の倫理規定における要求も満たすものである。

LRQAは、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。

全ての検証及び認証結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQAは会社に対して、ISO9001、ISO14001、ISO45001、IATF16949、IRISの認証を実施している機関である。実施した業務はこれらの認証及び検証のみであり、それ自体がLRQAの独立性あるいは中立性を損なうものではない。

Shohtarō Kamabata

2024年5月27日

川端 将太郎

LRQA 主任検証人

LRQA リミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA 10F

LRQA reference: YKA4005454

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the Report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2024.